

会議開催記録

会議名	第6回 森町総合計画審議会
日 時	平成29年2月3日（金）13：00～
場 所	森町町民生活センター 2階集会室
出席者	町長、副町長、審議会委員16名、まちづくり検討委員1名、事務局5名 欠席委員 7名（秋山、今村、打田、小澤、熊王、前田、山本充 委員）
議 事	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 町長あいさつ 3 会長あいさつ 4 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 森町総合計画基本構想（答申案）について【資料1】 (2) 森町総合計画基本計画（答申案）について【資料2】 (3) その他 5 閉会
議事要旨	<p>1 開会</p> <p>2 町長あいさつ</p> <p>町 長： お忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。</p> <p>風は強くなってきましたが、日ごしは暖かく、日本各地で大雪にみまわれていますが、この地域は恵まれた気候であると改めて感じています。</p> <p>今日2月3日は節分、明日は立春で暦の上では春を迎えます。ロウバイも見頃です。町内各地で梅の花も咲き、桜もつぼみを膨らまし、厳しい寒さにあっても、春の気配が感じられ、素晴らしいことと感じています。</p> <p>本日、移住促進パンフレットを配布させていただいていますが、森女ハッピープロジェクトと称して、人口増対策、移住促進対策を検討しています。これを都会等で配布し森町を紹介するとともに、森町への訪問、移住へとつなげて行きたいと思っています。ご覧いただき、ご意見等いただけたらと思います。</p> <p>現在、町は当初予算の編成を進めています。2月下旬に議会報告し、報道後に公表となるので、まだこの場でご説明は出来ませんが、現在策定中の第9次総合計画の実現を視野に入れて、予算を編成している所です。本会もあと2回となり、本日も出席いただきましてありがとうございます。</p> <p>本日は、前回いただいたご意見や、パブリックコメント実施後の意見を踏まえて検討させていただいたものを答申案として作成したものです。</p> <p>前回同様に、それぞれのお立場から行政への忌憚のないご意見をお願いしたいと思います。</p> <p>3 副会長あいさつ</p> <p>副会長： 私は20年前になりますが、この総合計画の担当をやらせていただきました。当時は人口を減らすなど、とんでもない話でしたが、現在は人口減少、超高齢社会と言われ、高齢者福祉が話題の中心になっています。それまでは、老人施設（ホーム）というのはお金がある人の入る施設で、家か病院で看取るのが普通でしたし、特養とか、ケアハウス等の言葉も出始めた頃で、内容を理解するのに苦労した覚えがあります。今では、種々施設も出来</p>

てきて、20 年前との違いを感じています。さらに今後 10 年、20 年と経って、人口がもっと減っていくなか、限界集落が消滅しないような、森町が今のように存在していることを願っています。本日も皆さんから色々なご意見、忌憚のないご意見をよろしくお願いいたします。

4 議事

(1) 森町総合計画基本構想（答申案）について

・事務局より説明（パブリックコメント意見と対応表、序論案、資料 1）

（審議）

委員： パブリックコメントについてですが、6 名・14 件というのは、多いのか少ないのかなのでしょうか。

基本構想、P 1、下から 5 行目「こうしたことから」から始まる基本理念が次のページに続き、「と定めます。」までが長すぎないでしょうか。（基本理念が長い）例えば、「基本理念として次の 3 つを定めます」のように、一度文章を区切った方がいいのではないのでしょうか。

事務局： パブリックコメントについて、意見の多少の基準といったものではありませんが、実施期間や方法にもよりますが、近隣では 2 名・5、6 件という場合もあり、市レベルになればもう少し多くなるかと思いますが、今回、日数的にも 19 日間と十分であったと考えており、意見数は想定した範囲内で、多くも少なくもないととらえています。

基本理念ですが、少し長くなっているイメージがありますので、見易さ、読みやすさも考え、検討・対応したいと考えます。

副会長： 文章が何処につながるか、分からなくなっているのでは、検討してほしいと思います。

委員： 資料の文中にある下線は、訂正箇所という意味だと思いますが、最終的に線は消えるのでしょうか。

事務局： 下線はなくします。

委員： P 1 の上から 4 行目、古都・京都を「模した」というのは、ぜひ違う表現に替えていただきたい。私見ですが、小京都を「彷彿させる」とか、京都を「凌ぐ」と言ってもいいくらいだと思っています。

P 3 ですが、森町は他と違って、民間の力で頑張るという特長があっていると思いますが、今の 6 つの基本の柱にいくまでに、地方創生の 4 つの課題（雇用の創出、人の流れ（交流・移住）、若い世代に対するファミリープランの実践、地域との連携）がありますが、さらにそれを広げて 6 つのもの（基本の柱）を出したということ、そして 3 つの輪（人の輪、対話、調和）を町民皆でやっていくことを前提に考えながら、今後進めて行っていきたいと思っています。改めて 4 つを書き出すのも却ってわかりにくくなりますが、地方

創生の課題背景として理解していて欲しいと思います。

それと、P 7、「PDCAサイクル」をまわす、というところ。ここが一番の根幹になるでしょう。個別の事業の精度を高めるというのは、行政内部（特に財政、人事部局）だけで見ては駄目で、外部（ビジネスセンスのある人材）に入ってもらい、主要な事業だけでも見てもらうこと、そういう客観的な評価が重要です。どこまで謳うかはお任せしますが、総合計画には目標指標などありますが、最後に重要なのは個々の事業がどうPDCAサイクルでまわっていけるのか、というところです。

事務局： 1点目については、表現を改めたいと考えます。2点目の地方創生4つの柱（課題）については、表現について、少し考えたいと思います。行財政の運営についても、ビジネスセンスのある人、そういう方々が入った形も検討していきたいと考えます。

副会長： 地方創生という言葉は、あまり考えたことがありませんでしたが、確かにご指摘のとおりだと思います。言葉だけでも、どこかに入れ込みが必要なのではと思いました。

委員： 「地方創生」が、国の政策をあてにして「地方」が下になるようなこと（ローカルガバメント）ではなく、海外で言うようなリージョナルガバメント、「地域創生」とでも言うべきことであって、皆が汗をかいて、主体的に取り組む姿勢が求められているということです。

委員： 今後作成する総合計画のダイジェスト版も、今日の移住定住パンフレットのように、一目で内容が分かるようなものにして欲しいと思います。

1つ質問ですが、パンフ表紙に記載の、「まったり」とはどういう意味でしょうか。もう1つは、ここまで折角いいもの（計画）ができてきたので、役場内でも職員全員の声を聞きながらつくっているということでしたし、これから下へ降りていく時に、どう降りていくのか、いつもこの計画が基本になって、そして今後10年で森町が変わっていくといいと思っています。

委員： このキャッチフレーズを考えたのは私ですが、順番で言うと森（MORI）の「M」に合わせて、のんびりしたりとか、ゆったり時間が流れる、そういう穏やかなことをイメージして「まったり」と表現しました。

委員： パンフレットでの表現として、豊かな自然、環境というのは、耳ざわりはいいのですが、森町の現状からは、何が豊かで悪いのかというのに、どう考えたらいいのか難しいとも思います。もう少し具体的なことが入れば分かり易くなるのかもしれませんが。

委員： 掛川から車で僅か20分の所に、豊かな自然、森町の茶畑があるということが、都会から来た人にとっては驚異で、素晴らしさだと言われています。文化の面では、日本の原風景が残っていることが森町の特徴、魅力で、しかもそれが都市の近くにあること、最後のパラダイスだとも言われていて、寧ろ自慢して欲しいと思います。「遠州の小京都」の語源としても、その辺りでなっているのではと思います。比較的都市にも近くて便利な所なのに、

豊かな自然があるということが森町の自慢になるのではないのでしょうか。

委員： 「自然溢れる」などというのは、何処の市町村でも書いていることでしょう。森町で「自然溢れる」というのは「何処のこと」かというのを、もっとPRするといいのではないのでしょうか。

委員： そういったPRの関係は役場だけでは限界がありますので、是非、皆さんが報道官となって、いろんな所で言っていただいて。町長の言う総合力もその辺だと思うので、是非お願いします。

まちづくり委員： 個人的に利用しようとしたのですが、耳鼻科や産婦人科というのは森町内に無かったようです。個人病院、クリニックなどもっと充実させて欲しいと思います。パンフレットには「医療・福祉も充実しています」とありますが、どうなのかなと思ってしまいます。

委員： まず森町のイメージとして、この、大きな公立の病院があること自体が知られていません。パンフレットは自慢大会でいいと思っています。弱みは出さなくていいので、もっと自慢出来る事を書けばいいと。弱みはその後の説明でもいいのです。おっしゃることも分かりますが、首都圏や中京圏にPRすることでは、パンフレットは大風呂敷でいいと思います。

委員： パンフレットの掲載写真で、葛布の滝は現在、この様だったのでしょうか。

委員： 滝はあります。行くまでの道は整備されていませんが。

委員： 滝があれば十分だと思いますが。ただ、「いつ撮ったか」ぐらいは書いておくべきかもしれません。

副町長： 滝自体は変わっておりません。ただ、滝の脇が土砂で崩れてしまっていますが。

副会長： 時間の関係もありますので、次の議題へ移りたいと思います。

（２）森町総合計画基本計画（答申案）について

・資料２について事務局より説明

（審議）

委員： 基本の柱の３番目の活力・情報発信ですが、基本構想の内容では、女性や若い世代の視点で、と書いてありますが、基本計画には見当たらず、具体的にどこに当てはまるのかわからないので、基本計画にも一言、その視点のものがあればと思うのですが。

事務局： ご指摘のとおり、基本計画に掲載はないので、基本理念、将来像には、いろんな場面の対話に、女性・若い世代も含めて書いていると思いますが、どこかでそういった所を書

き足すか、可能な範囲で検討していききたいと思います。計画推進、協働のまちづくりの所か、情報発信の所で書き足せればと思います。

委員： 5. 安心安全の内容ですが、民間でもがんばっている人がいらっしゃいます。民間の人達は普段は天気情報を発信していますが、停電の時は、その情報になったり、台風があれば台風の情報になったり、地震があればその情報になっているのです。そこで、SNSを利用した民間情報の活用、官民協働の情報受発信などに入れていただけたらと思います。主な事業としては、防災発信者育成事業といったイメージで入れていただけると嬉しいです。今の活動については「コンパス」という全国版の情報誌にとりあげられました。そういう人達と連携しながら民間と協働で行うことを入れていただけたらと思います。

事務局： 「計画推進のために」の情報通信技術の活用のなかで、地域防災力、そういった情報の発信ということも必要だと考えていますので、そこに含まれてくるだろうと。防災担当とも検討したいと思います。

副会長： 基本の柱5－（2）に入ってくるだろうと思います。民間との協働について考えてみるべきかもしれません。

委員： P14、2）の＜主な事業＞に学校支援ボランティア更新とありますが、更新というのがいかにも事務手続きのようなので、促進とか拡大とか表記した方がいいのではと感じました。

P1、本文4行目、「年」が抜けています。前回、年号西暦表記の件が出ましたが、なってみると併記ではわかりにくさを感じました。少なくとも、基本構想P1、近い将来（2025年（平成37年））はどちらか1つ書けばいいのではないのでしょうか。さらに、すなわち自治体（森町）の（ ）もいらないのでは。

事務局： 学校支援ボランティアの語尾は確認して文面を検討したいと思います。西暦、年号併記や（ ）書きの補足についても、次回までに読みやすい形に修正したいと思います。

委員： P1～2について、書き方はこれでいいと思いますが（皆で助け合う健やかなまち）、概要版の時には、もっとアピールする部分を入れていただきたい。例えば、静岡県の場合、健康寿命日本一延伸（県）であるとか、森町なら「お達者度、遠州一達成」といった表現を考えてもおもしろいと思います。「遠州の小京都を活かしたまちづくり」など、他では真似のできないフレーズができるので、もっと、外向けを意識してほしいと思います。

P35～36、安心安全分野こそ、避難所運営する時に、女性の視点が大事なので、一行でもいいので入れると内容が生きてくると思います。また、防災力の高いという文言、「地域」防災力に戻した方がいいのではないのでしょうか。避難所の運営を自分たちが担う、という覚悟、内の力が必要になるということです。

P29～30、企業誘致ですが、企業から言われる文句、土地はすばらしいが、移った企業が得をするようなマーケティング調査がない、WIN-WINになれる提案がないといつも言われます。WIN-WINになれる提案をしながらやっていく、そんなことを一言入れていただけ

ると嬉しいです。

P27～28、茶業の低コスト製造は大事ですが、基本は価値づくりだと思います。2番茶に香り付けして喫茶店を出してというような、新たな価値をつくったり、6次産業化していくのも大事でしょう。森町には、地域外から金をたくさん取り込んでいるお店もあるのです。例えば、森町の「お達者度No.1 T E A」でもいいのです。こうした、「価値づくり」に視点を置いた書き方をすると、農業の方もイキイキするのではと思います。

事務局： 概要版の作成では、何か目をひくような表現等も考えたいと思います。その他、ご指摘の関係は担当課とも検討させていただきたいと思います。

委員： P44、環境保全活動の推進の所で、年間行事の中で、8月と2月に太田川の堤防の清掃をやっていますが、もっと地域の方に広がっていけば、もっときれいな町になると思うので、環境美化活動の推進といった表現にして欲しい。

事務局： 「推進」という表記で考えたいと思います。

委員： 各項目に目標指針がありますが、P8の所はお達者度とか2項目、P14の所は細かい指針が入っています。P8もグループホーム〇件とか出来そうですが、どういう設定方針か教えていただきたい。

計画書の表記として全体的に「障がい者」、「障害者」と併記がみられますが、一般的には「障がい者」で統一しておくのではないのでしょうか。

事務局： 目標指標については、今回の第9次総合計画で新設していますが、福祉部門については既に個別の計画があって、その目標指標がありますので、総合計画の方では、代表的になるものを指標としてエントリーしています。教育文化の所は、他に比べて多くなっていますが、担当課からあがってきた内容を尊重しています。

ご指摘の通り、障害者の「害」は平仮名（がい）表記が基本です。しかし現在、「障害者」表記なのは計画名称をそのまま記載しているところなので、その後名称が改められているのかなど、担当課に確認させていただきます。

委員： P22の目標指標ですが、Wi-Fiスポットとして、民間にはもう13か所ほどありますので、民間のスポットも付け加えていただけると嬉しいです。

事務局： 何か紹介できる媒体を作る際には、官民双方の掲載を考えたいと思います。

委員： 町長がおやりになろうとしている対話、信頼の構築に向けて、また、計画の実行性を高めていくような意味合いとして、この会を始める時と終わる時に、武道と同じく、全員起立していただいて「相互に礼」をやってほしいと思います。そこから後は私心を無くして、それぞれの業界の立場を超えて、森町の地域のためだけに、この時間を過ごしてください、ノーサイドでやっていただきたいということです。礼に始まり、礼に終わるという、この地域は、正にそれができる皆さんが揃っているようなので、もし可能でしたら、できると

ころから、役場の方でとり入れられる機会があったら、是非お願いしたいと思います。

それと、こういった素晴らしい計画が出来てきましたので、県では、世界クラスの資源・人材群として富士の国静岡県というのを出していますが、要は、森町には「日本クラス」のものがたくさんあるのだと思います。遠州の小京都はそうでしょうし、日本の原風景が残る町並み、お達者度No.1 もそうで、そういったものを一覧化して共有出来るものを考えていただければと思います。要はそれが郷土の誇りだったり、更にワールドクラスに向けて作っていくといったことにつながると思います。

副会長： 今の意見はご提案ということでよろしいでしょうか。予定時間が来ております。他、言い足りない事がありましたら、後は、また意見書にして事務局までお願いしたいと思います。それでは事務局にお返しします。

（３）その他

事務局： 貴重なご意見ありがとうございました。次回は最終回で、審議していただき答申するという予定です。２月１６日（木）１６時を予定しています。

５ 閉会

以上